FUKUI HAPPINESS 福井県

来る人も 住む人も しあわせ福井

福井の戦国　歴史秘話

＜第3号＞

平成29年4月30日発行

知将、明智光秀の再起の地への思い

明智光秀

本能寺の変を起こし、**織田信長**の生涯が描かれるドラマには必ず登場する武将、**明智光秀**。彼が、５５年の人生の約５分の１を福井（越前）の地で送ったことはあまり知られていません。今回は、ドラマではあまり描かれない、光秀と福井の関わりについて取り上げます。

光秀は享禄元（１５２８）年、美濃国、明智城に明智光鋼（諸説あり）の子として生まれ、１５歳で元服すると、美濃の戦国大名、**斎藤道三**に仕えます。２６歳の時、**妻木熙子**（ひろこ）と結婚しますが、弘治２（１５５６）年、道三を倒した**斎藤義龍**（道三の嫡男）に攻められ、明智城は落城。２９歳の時、光秀は美濃の国から油坂峠を越えて越前に逃亡します。落ち着き先は、現在の坂井市丸岡町にある称念寺の門前でした。あばら屋での生活は困窮を極めたといいます。

光秀、３５歳の時、転機が訪れます。加賀の一向一揆が越前に襲来した際、光秀は朝倉軍に与し、智才を活かして朝倉軍の勝利に貢献。これを機に、**朝倉義景**の客臣として一乗谷に迎えられたのです。

仕官への道が開かれた際のエピソードが残っています。光秀が勝利に貢献したことが縁で、朝倉方の武将から、「光秀の居宅で歌会を」との交遊の申し入れがありました。しかし、極貧生活の光秀には、彼らをもてなす余裕などありません。この時、妻、熙子は、光秀のために大切な黒髪を売り、御馳走の準備をし、歌会を成功させたといいます。妻の賢明な努力が光秀の仕官を叶えたのです。

（称念寺には、この伝承を聞いた松尾芭蕉が感激し詠んだ句「月さびよ　明智が妻の　はなしせむ」が碑となって残っています。）

その後、４０歳の時、朝倉に見切りをつけ、織田信長の家臣となります。天正３（１５７５）年、主君、信長の越前再侵攻の際にも、こんなエピソードがありました。戦乱の直後、光秀がかつて住み過ごした現在の福井市東大味（一乗谷朝倉氏遺跡の南西）の西蓮寺に対し、猛将**柴田勝家**たちから安堵状が出されました。安堵状は、光秀が東大味の人々の安否を気遣い、勝家に依頼し出状させたもので、この安堵状のおかげで、西蓮寺は保護され、住民は無事に生活できたと言われています。（西蓮寺に今も残る安堵状には、“この寺者等は元の場所に帰って住むこと”、“理不尽なことを言う者がいれば、その者の名前を伝えよ。厳罰に処す”と記載されています。）

逆臣、裏切り者と称される光秀ですが、約１０年身を置いた再起の地、越前に感謝し住民を思いやる姿こそが、光秀の本当の素顔なのかもしれません。地元住民は、光秀の思いに応えるように、毎年、命日の６月１３日に法要を行い、光秀の遺徳を偲んでいます。　＜参考資料＞『戦国 越前・若狭 概説 朝倉氏の歴史』ほか

～戦国ふくい歴史紀行～　［明智神社（明智光秀屋敷跡）］

・光秀が居を構えた東大味（一乗谷朝倉氏遺跡の南西）。その屋敷跡に、光秀を祀る明智神社があります。一向一揆等の敵から知力をもって村を守った光秀に感謝し、「あけっつぁま（明智様）」と慕い、祀り崇めてきました。三女、玉（後の細川ガラシャ）もこの地で生まれています。

【住所】福井市東大味土井ノ内　（北陸自動車道福井ICから車で40分）

明智神社

★お知らせ　春季特別展「刀に彫る」を開催！

・平成29年5月7日（日）まで、福井市立郷土歴史博物館で開催（9:00～17:00）

・「伝家の宝刀」という言葉が示すように、日本刀は武器であるとともに宝物。越前彫のほか、歴史的な名品から現代の匠の渾身の作まで、刀身彫刻の歴史を広く紹介します！

【住所】福井県福井市宝永3丁目12-1　【問い合わせ先】0776-21-0489

（発行者）福井県　　（問合せ先）福井県観光営業部ブランド営業課　山田、前田　☎ 0776-20-0762